

今月の一言

キーワード：チームワーク

テレビで「抜群のチームワーク」をいうニュアンスの映像が流れると、その多くがチームメイト同士で仲良く喜び合っている姿や、ともに練習している姿ではないでしょうか。それを「抜群のチームワーク」と報じることは間違っているとまでは言いませんが、チームワークの本質ではないと私は思っています。

例えば野球の世界では、打席順にそれぞれの役割があります。1番にはチャンスを作るリードオフマンとして高い出塁率が求められ、4番にはそのチャンスをものにする長打力が求められます。バッターは役割をよく理解し、バッターボックスで仕事をするのです。

役割があるということは、そこには責任が伴います。その責任の元、与えられた役割をこなし、仕事ができるようにコンディショニングなど徹底した自己管理を行う。私はそれがチームワークの本質だと思っています。

仲が良いということが悪いとは思いませんが、ただ、アスリートである以上、チームメイトでも時としてライバルなのだから、仲良しでいる必要はないと思っています。仲良しこよしでなくとも、組織の中で与えられた役割を責任持って全うする。そして全うするための自己管理を怠る者がいなければ、素晴らしいチームワークが発揮されているということになるのです。

これはスポーツに限らず、社会は組織やチームで成り立っていて、1人で動けるものではありません。それはテニスといった個人競技でもそうです。トップ選手ともなれば周りにはコーチやトレーナーなど、たくさんのスタッフが支えています。

その組織の仲間やチームメイト、スタッフの連携が取れ、それぞれに役割を果たすことで組織が機能していると言えるのです。社会に出れば、必ずそういったチームワークを発揮しなければいけない立場になるでしょう。その練習のためにも、子どもの頃からチームワークの本質を教えておく必要があると思います。

チームワークが発揮されたうで、冒頭のようなみんなが喜び合うシーンが訪れれば、それは素晴らしいことです。

著書：三兄弟をプロサッカー選手に導いた子育て論 己 著者：高木 豊

各自が責任を持って、役割をはたす。

2016年9月23日

さいのう とおる

**追伸：9月になってから天候も悪く、いっきに涼しくなりました。健康に注意！
全国労働衛生週間、職場の周りの点検をしましょう。**